

特別講演 1

「～TG をターゲットとした脂肪肝炎治療～

肝臓内科医が考えていること」

京都府立医科大学大学院医学研究科 消化器内科学准教授

山口 寛二 先生

1980年にアメリカの病理医 Ludwig が NASH の概念を提唱しました。しかしまだ日本ではその議論は少なく、私が肝臓内科の第一歩を歩み始めた 20 年前の大学院生の頃、cryptogenic cirrhosis と分類されていました。肥満や糖尿病に合併する脂肪性肝疾患 (NAFLD) はその一部が脂肪肝炎 (NASH) に分類され、肝硬変や肝がんに至ります。肝臓に脂肪として蓄えられる脂肪滴は主に中性脂肪であり、この中性脂肪を健康的に減らす必要があります。しかし残念なことに、NASH 治療法は未だ確立されておらず、食事運動療法や合併症治療薬に依存している状況です。現在、NASH 発症機序に基づく様々な臨床治験が進行中ですが、多様な背景因子を考慮したコンビネーション治療が注目されています。本講演では NASH の概念と発症機序、治療の方向性と、現在京都府立医科大学で取り組んでいる臨床、基礎研究の成果について紹介させていただきます。また、糖尿病内科や循環器内科の先生方とはメタボリック症候群という近いところで診療しています。基礎研究でも動脈硬化モデルマウスの肝臓が NASH だったという話があり、NAFLD の負のアウトカムとしての動脈硬化性疾患が注目されています。近年、動脈硬化学会と肝臓学会の Joint Session ではトピックスとして議論され、臓器横断的な病態把握の必要性が認知されつつあります。最後になりますが、本講演が、肝臓専門医へ紹介すべき症例の選定を含めまして、日常診療にお役に立てば幸いです。